



消防大学校だより



消防団長科における教育訓練

消防大学校では、消防団の上級幹部に対し必要な知識と能力を総合的に修得させることを目的として、「消防団長科」の総合教育訓練を実施しています。令和7年度は、第87期（7月28日～8月1日）と第88期（10月6日～10月10日）の訓練が行われ、それぞれの期に28名の受講生が参加し、5日間（計30時間）の教育訓練を修了しました。

消防団長科の受講者は、日頃は本業を行いながら、有事の際には地域の防災のために災害に立ち向かう消防団の幹部です。令和7年度の教育訓練には、全国各地から消防団幹部が一堂に会し、地域ごとの特性や課題について共に学ぶ貴重な機会となりました。

座学では、近年の消防団情勢や大船渡市林野火災などの直近の災害事例を題材に、さまざまな講義を受講するのみならず、それぞれの地域における災害対応や消防団員の安全管理について熱のこもった討論が行われました。校外研修では、日本消防協会の秋本会長から、消防団幹部としての理想的な姿や消防団活動の多様化、体制強化についての講話があり、消防団の職責について再認識する機会となりました。さらに、消防庁長官を始めとする消防庁職員からの講義により、最新の消防団情勢や地域防災力の充実強化に向けた取り組み事項、現状の課

題と対策、災害時の活動事例、加入促進や処遇改善、財政措置など直近の国の取組について理解を深めました。

実科訓練では、指揮シミュレーションを通じて常備消防との連携や団員の安全管理、災害現場全体を把握する重要性について学び、実火災体験型訓練では、危険物火災の性状について専門的知識及び訓練目的を理解し、異常燃焼現象の見取り訓練・輻射熱の体験訓練を実施しました。

また、消防団等充実強化アドバイザーからは、都市部と地方の違いなど地域特性に応じた団員活動や訓練についての講義、さらには、今後の課題、新規団員獲得に向けたスピーチトレーニングなど、新しい時代に即した消防団のあり方について講義が行われました。

研修を修了した受講者からは、「様々な分野が受講でき有益となった」「新しい知識を得ることができた」「改めて団幹部を自覚した」といった感想が寄せられました。

また、受講者同士の活発な情報交換が相互啓発の場となり、「様々な方と交流ができ、自分は一人ではないと改めて感じた」との声もありました。

今後、消防大学校で学んだ知識と技術を各地域で發揮し、地域住民から一層信頼される消防団づくりのリーダーとして大いに活躍されることを期待しています。



指揮シミュレーション訓練



実火災体験型訓練



校外研修



消防団活性化推進コース（行政職員）における教育訓練

消防大学校では、消防団の加入促進や教育訓練等充実強化業務に携わる者に対し、その業務に必要な実務的な知識及び能力を修得させることを目的として「危機管理防災教育科・消防団活性化推進コース」を実施しています。

本コースは、行政職員向けの5日間コースと消防団幹部向けの3日間コースと2種類があり、今回は「行政職員向け」で9月8日（月）から9月12日（金）までの5日間で実施し、29名の受講生が無事その課程を修了しました。受講者の特徴として、消防職員と行政職員が混在することで、それぞれの視点・各地での取組み・それぞれの課題等について活発な意見交換が行われました。

研修は、消防庁地域防災室からの「消防団を中心とした地域防災力の充実強化」に関する講義をはじめ、先進的な取組みとして「加入促進」、消防団活動を活性化させる「常備消防の取組み」及び「教育訓練の改善」など地域実情を踏まえた取組みについて、各講師から熱意ある講義を行っていただきました。

その中でも、消防団と地域防災の講義では、「地域防災とは何か。減災とは何か。」を基礎から理解するとともに、消防大学校周辺の住宅街を受講生達が自ら歩き、町の中に潜む危険を抽出する、災害図上訓練（DIG訓練）は、残念ながら当日発表された記録的短時間大雨情報により室内での実施となりましたが、地図上で班別に話し合い

情報共有するなど、その訓練技法の修得を行うと同時に、記録的短時間大雨情報発表にかかる地域の防災意識への話も加えて講師から伺うことができました。

課題研究では、「加入促進」「処遇改善」「装備改善」「教育訓練」の4つのテーマから取組み状況や課題等を班ごとにグループワークを通して、それぞれの見地から研究と検討を重ねました。

発表では、消防庁地域防災室消防団専門官を講評者に迎え、受講生からの活発な発表を通して共通する課題を情報共有することができ、課題解決の糸口になるとの声がありました。また、様々な課題解決に向けた発表内容に対し、専門官から「実行しましょう」との声かけがあり、学生は今後の困難な課題解決に向けて勇気をいただいたものを感じています。

研修を終えた学生からは、「共通の課題を抱えた全国各地から集結した受講生との実直な意見交換は、非常に有意義であり、各講義が即戦力になる内容だった」等の感想が寄せられ、充実した研修であったものと思われます。

今後は、消防大学校で修得した知識・訓練技法を生かし、ここで生まれた受講生同士の貴重な信頼関係を深めることにより、地域防災力の中核をなす地元消防団の発展のために活躍されることを期待しています。



課題研究発表



災害図上訓練（DIG）



研修修了

問合せ先

消防大学校教務部

TEL: 0422-46-1712